

本巻は『奈良市史 通史四』にあたり、明治維新から太平洋戦争の終結までの近代の奈良を対象としている。当初の方針にしたがい、本巻も旧奈良町を中心とし、新市域の近隣町村については必要に応じてふれるにとどめた。執筆委員は別掲の九人、私が編集の労をとらせていただいた。

私たちが本巻の編さんに取りかかったのは、「通史三」の発刊をみた昭和六十三年（一九八八）のことであった。委員の大半が「通史三」の委員を兼ねていたからである。それから今日までかれこれ七年の歳月を要したことになるが、それだけの時日を必要とする事情があった。

その一つは、昭和二十三年（一九四八）十一月一日夜の火災で市庁舎が全焼、基本史料というべき行政資料がすべて焼失していたことである。そのため、史料の探訪・収集のため多くの時間と労力を割かねばならなかった。市内各所に赴いて史料の調査にあたってもらったし、国会図書館や国立公文書館などにも足を運んでもらった。しかし、まとまった史料にめぐり会うことは少なく、行政資料の焼失は、本巻を編むうえでの大きな支障になった。

いま一つは、これまで奈良では、天平の栄光に心惹かれてか新しい時代への関心が薄く、近代奈良の研究が立ち遅れていることであった。もちろん、旧『奈良市史』（昭和十二年刊）をはじめ参考にさせていただいたいくつかの著作はあるし、二、三援用させていただいた論考もある。また近年には、奈良近代史研究会の活動も見られるようになってきている。しかしながら、旧奈良町の近代に関しては、依るべき研究成果がまだまだ乏しい状況にある。そのため、本巻を編むにあたって一から始めねばならない場合が多く、それだけ負担がかかることになった。

こうした悪条件のもとではあったが、平成五年（一九九三）を迎えるころには、苦心の原稿が寄せられるようになった。しかし、私の個人的な事情で編集に取りかかるのが遅れた。早くから原稿を寄せられた方々のご寛恕を仰がねばならない。本格的な編集作業に入ったのは、ほぼ原稿が出揃ったその年の暮れごろだったが、これがいささか手間どった。分担執筆のために生じた重複部分を整理したり、空隙部分の補綴をしたりしなければならなかったからである。通史としての統一をとるために加筆や訂正をお願いしたり、時には再調査をお願いしたこともあった。私の方で直接手を加えさせていただいたりもした。私の求めに快く応じて下さった委員のご厚情には感謝のほかはない。

少し遅れはしたものの、委員各位のご尽力のおかげで、「通史二」の次の年に発刊という約束の期限には、どうやら間に合わせる事ができた。ほっと肩の荷を下ろした思いである。

調査が不十分であったり、問題の掘り下げが足りなかったところもあるかもしれない。しかし、奈良の近代史の大筋は、ほぼこれを明らかにできたものと信ずる。本市の特性にかんがみ観光や文化に比重をかけ、これまで顧みられることの少なかった戦時中の市民生活に目を向けるとともに、同和問題の解決を願って被差別部落の動きも取りあげた。明治前期の行政制度をはじめ、本巻によってはじめて明らかにすることも少なくないと思う。本巻が、奈良の近代史研究の足がかりとして役立てられることを心から願うものである。

本文中に収めきれなかった表の一部や昭和初年の農業統計などの基礎資料を付表に収めたが、歴代役職者名や人口統計などは収録しなかった。これら現代につながる資料は、年表などともに「通史五」現代編に収める方針で、通史の編さんがすすめられてきたからである。

本巻の編さん中、宮武テラスさんから所蔵史料の寄贈をいただき、赤堀綾子さんからは大正五年七月以降昭和

十四年十二月にいたる『奈良新聞』（一部欠除。ほかに明治三十四年前半、三十八年後半、大正二年前半の分も含まれている）の寄贈を受けた。いずれも貴重な史料、まことに有難いことであった。このほか、史料調査や写真の提供など、本巻のためにご協力をいただいた方々は多い。いちいちお名前をあげるのは差し控えさせていただくが、深甚の謝意を表するものである。

市史編集室の皆さんのお世話になったのはもちろんだが、史料保存館の高橋光代さんには校正のうえでずいぶんご苦勞をおかけした。心から感謝の気持ちを捧げたい。また、印刷を引き受けられた共同精版印刷株式会社には、なにかと迷惑をかけたし、無理な注文も聞いてもらった。林義喜部長をはじめ関係者に対しても一言お礼を申しあげておきたい。

平成七年三月

木村博一

執筆者（五十音順）

安彦 勘吾 帝塚山短期大学教授

岩城 隆利 元興寺文化財研究所長
名古屋学院大学名誉教授

後呂 忠一 元奈良教育大学教育学部附属中学校副校長
東大寺学園中・高等学校専任講師

大久保 信治 桜井女子短期大学図書館長

奥谷 道夫 元奈良女子大学文学部附属高等学校教諭

木村 博一 奈良教育大学名誉教授

中塚 明 日本学術会議会員
奈良女子大学名誉教授

平岡 定海 東大寺別当

山上 豊 奈良県立奈良図書館館内奉仕第二係長

（郷土資料担当）

奈良市史 通史四 ©

奈良市民頒布版

平成七年三月二十日 発行

編集 奈良市史編集審議会

発行 奈良市

印刷 共同精版印刷株式会社